



「いかにせむ 山の青葉になるままに 遠ざかりゆく花の姿を」

俊恵

(どうしようか・・・ 山が青葉になるにつれて、遠ざかってゆく花の様子を・・・)

天神山の若葉が青葉にかわってきています。四季ごとに見せる山の姿に私たちの心もひかれます。

トラブルは子どもの成長のチャンス

学校では、日々いろいろなことが起きています。今号では、子どものトラブルについて考えてみましょう。

小学校3年生の途中から学校に行けなくなり、半年間不登校だったけんちゃん。4年生の春から、友達に迎えに来てもらって登校を始めるようになりました。お母さんは、けんちゃんが登校し始めたのでとても喜びました。

一か月くらいしたある日のこと、担任の先生から「他の男の子とケンカをした」とトラブルの電話がありました。お母さんがけんちゃんに理由を聞くと、「向こうが先に叩いた」と言ったのでお母さんは、「うちの子ばかり悪者にして」と怒ってしまいました。しかし、よく確認すると先に手を出したのはけんちゃんであることがわかりました。そこで、嘘をついたことに腹を立てたお母さんは、けんちゃんに手をあげてしまいました。そのことで、再びけんちゃんは学校に行けなくなったのです。

皆さんは、このような事例が起きた時にどう対応されるでしょうか。

けんちゃんが学校に行き始めたことを喜んでいた矢先にこのような出来事です。お母さんが、けんちゃんに裏切られたと感じ、叩いたことは親として気持ちは理解できなくはありません。けんちゃんの登校がうれしかっただけに嘘をつかれたことがよほど悔しかったのでしょうか。しかし、このようなときに手をあげることはどうなのでしょう。

ここで、どうすればよかったのか考えてみましょう。

最初のお母さんの失敗は、先生を信頼しなかったことです。初めに学校の先生としっかり話し合いをして事実を確かめればよかったでしょう。親にとって、自分の子どもは可愛いもの、信じてやりたいのです。先生からの連絡に対して「うちの子ばかり悪者にして」と思いがちですが、そこは先生を信頼したいものです。先生の話をもっと聞いていればけんちゃんの嘘に気づき、冷静に対応できたことでしょう。

次の失敗は、けんちゃんとしっかりと向き合わなかったことでしょう。けんちゃんの気持ちをしっかりと聞いてやればよかったのです。そうすれば、けんちゃんは嘘をついた理由を「叱られたくなかった。お母さんを悲しませたくなかったから」と説明できたのではないのでしょうか。そこで嘘をつくことはいけないのだときちんと指導でき、そうすれば、けんちゃんが再び不登校になることはなかったことでしょう。

このようなことがあったときには、親としてなかなか冷静にできないものですね。でも、「子どもは、トラブルを起こすもの。トラブルがあるのが当たり前」と捉えることが大切です。そのように考えることができる親は、子どものトラブルに対して余裕を持って対応できます。だれも失敗なく生きていくことはできません。子どもも大人でも同じです。子どもにとってのトラブルは成長のチャンスととらえるようにしたいものです。